

知って、みて、対応する！
子どもの口腔機能にアプローチ！



診療室で今日からできる！
子どもの口腔機能を育てる本
口腔機能発達不全症への対応
浜野美幸 著

A4判変/164頁 定価 7,480円(6,800円+税10%)
医歯薬出版(2020年7月)

田中歯科クリニック(東京都中野区)
評・田中英一(歯科医師)



定期健康診査で来院した子どもをみていた歯科衛生士から、「気になるところがある」と呼ばれました。ゴックンしてもらったとき、口の周りの筋肉が緊張して、オトガイにもしわができるというのです。お父さんに聞いたところ、「気にしていなかったけど、たしかにそうですね。そういえば、口もよく開いています」とのこと。

皆さんもこんな経験があるのではないのでしょうか。今回、出版された『子どもの口腔機能を育てる本』は、まさにこうした子どもに出会い、どう向き合えばよいのかを考えると、ぜひ手に取ってほしいガイドラインともいえる書籍です。

「口腔機能発達不全症」は2018年に保険収載された疾患名です。その背景には子どもの保護者を対象とした大規模調査で、半数以上が

「子どもの食事について心配事がある」と回答したという実態があります。このことは子どもの健康にかかわる私たちが、社会のニーズとして受け止めなければなりません。

著者は、大規模調査のずっと前から、日々子どもと向き合うなかでこの課題に気づき、試行錯誤を繰り返しながら独自に取り組んでこられました。その積み重ねてきた対応法やツールが、読者の皆さんが現場で活用できるようにと付録として巻末に掲載されているのも、子どもたちの健康を思う気持ちの表れでしょう。

全体の構成は「知る」「みる」「対応する」「取り組む」の4部構成になっています。最初から読まなくても、読者の皆さんの興味のあるところから目を通してもらえれば、きっと期待に応えてくれる内容です。どの部分を読んでも、「子どものために何か行動しよう！」という著者の強い思いをきくと感じるはずですよ。

たとえば「みる」のところでは、本人や保護者が気づいていない動作には、スマートフォンで撮影してもらい、子どもの気づきへ結びつけるなど、具体的な対応写真やイラストをふんだんに使って解説されています。

「対応する」のなかには、著者が活用しているトレーニング要素のある遊びも紹介されています。飽きてしまって続かない子どもには、遊びを通じて正しい口腔機能を身につけてもらうことで、成果を上げているそうです。

まだまだ紹介したいところですが、とにかく全部読まなくても、目次をみてもらえれば読みたくなる場所があるはずですよ。すでに積極的に取り組んでいる人にも「そうだったのか！」という目からうろこの情報があります。

この本をとおして、一人でも多くの子どもがより健康に、より楽しい生活が送れるように成長することを手伝うことができれば素晴らしいかと、わくわくできた久しぶりの専門書です。